

国際化に伴い多様化する「オープンハウス」の運営手法に関する研究

～Open House Worldwide 全加盟都市を対象に～

A STUDY ON MANAGEMENT METHOD OF “OPEN HOUSE” DIVERSIFYING WITH INTERNATIONALIZATION. -RESEARCH ON ALL CITIES OF “OPEN HOUSE WORLDWIDE”-

建築デザイン分野 米澤聡志

Architectural Design Satoshi YONEZAWA

建築公開イベント「オープンハウス」は、Open House Worldwideにより世界中で実施されているが、その実態は起源であるロンドンの事例を中心に語られている。オープンハウスは、都市に属する様々な主体の協力により成り立つ1つの運動体であり、その運営手法は都市ごとに異なる。本研究では、OHWWの全加盟都市を、運営という視点から「主催組織」「公開建築の立地」に関し分析することで、オープンハウスの特性として「普遍性」「拡張性」「都市領域横断性」を新たに示した。The open architecture event "Open House" is being implemented all over the world by Open House Worldwide, but its actual condition is elucidated based on the origins of London. Open House is one movement body formed by cooperation of various entities belonging to cities, the actual circumstances of which is different for each city. In this research, by analyzing all cities of OHWW from the viewpoint of management focusing on "Host organization" and "Location of open architecture". As a result, Open House has three characteristics "Universality", "Extensibility", "Crossing of Urban area".

1. 序論

1-1. 研究の背景と目的

魅力のある都市環境を実現するためには、既存の都市空間資源を使いこなすに加え、都市に対する市民の理解・愛着の醸成が求められている。以上を踏まえ、世界中の都市では、都市の魅力を内外へ発信することを目的に、市民の運営協力の下で行われる、市民参画型のシティプロモーション戦略が実施されている。

欧州発祥のオープンハウス⁽¹⁾はその一つであり、一定期間に複数の建築物を一斉公開し、市民が無料で見学することができる都市公開プログラムである。オープンハウスは、都市に属する多様な主体(個人、企業、市民団体など)の運営協力の下で成り立つ1つの運動体であり、その活動は都市全域に広がっている。

Open Cityはオープンハウスの実施を目的に設立された非営利の民間組織であり、1992年に建築公開イベントOpen House London(OHL)の運営を開始した。OHLの成功は国を超えて影響を与えており、世界中の都市がオープンハウスを導入し始めた。Open Cityはオープンハウスの世界的な拡散を契機に、主催組織間の協力・支援ネットワークであるOpen House World

wide(OHWW)を創設した。以降、OHWWの掲げる理念に共感し、加盟を希望する都市は後を絶たず、ネットワークはさらなる国際的な展開を見せている。

岡村らは既往の研究¹⁾にて、オープンハウスを取り上げてはいるが、いずれもOHLを中心にその活動理念や手法を研究対象としており、他の開催都市に対する詳細な調査は行はれていない。OHWWに加盟する都市は欧州の歴史的都市から米国の現代都市まで様々である。オープンハウスが多様な主体の運営協力の下で成り立つ運動体であるならば、各々の都市における主催組織の出自や、その取り組みの幅を考察することで、OHLのみに着目しては得られない運営手法の多様性を示すことができる。これは、オープンハウスという概念の将来的な実践可能性や、対象とする都市や主体の射程を明らかにすることに繋がると言える。

そこで本研究では、2017年時のOHWWに加盟している41都市を対象に、運営という視点から考察を行う。国際的な展開を経て多様化するオープンハウスという手法において、OHLの研究では未解明であった特性を明らかとし、新たにオープンハウスの実施を試みる都市に対し示唆を与えることを目的とする。

1-2. 研究の方法

本研究では、OHWWに加盟する全41都市を対象に、運営という視点から考察を行い、その多様性を示す事を目的とする。まず、全加盟都市の基本的情報を整理し、OHWWの現在の動向を明らかとする。次に、OHLを指標として、プログラムを構成する運営主体を明らかにする。次に、運営主体の1つである「主催組織」に焦点を当て、各都市の多様性を考察する。最後に全41都市の公開建築の立地を地図上にプロットし、オープンハウスの開催範囲と、都市との関係性を考察する。

2. Open House Worldwideの動向

はじめに、本研究で扱う全41都市のオープンハウスの運営に関する基本情報を(表4)に示す。

2-1. OHWWの歴史と背景

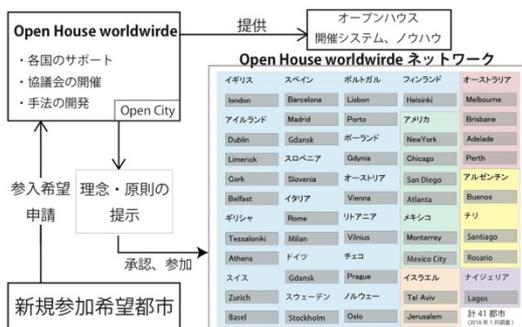
■Open City

1992年にVictoria Thornton氏により創設された非営利民間組織である。オープンハウスの取り組みは、創設の同年にOHLを開催したことに始まる。「建築(デザイン)の質」を重要視し、都市が有する歴史的建築から現代建築まで幅広い用途・年代・様式のことを公開対象に採用している。世界各国の都市は、これらのオープンハウスの手法に賛同し、その手法を導入し始めた。Open Cityは2010年に、オープンハウスの世界的な拡散を契機にOHWWを創設する。

■Open House Worldwide

創設以降、加盟都市は増加の一途を辿っており、現在41都市の加盟が予定されている。各都市のオープンハウスは独立して行われており、OHWWが各開催地での運営に直接関与することはない。一方で、国際サミットにて各組織の情報共有を密に行い、ネットワークを通じて全体の技術、経験の向上を促している。

また、OHWWは主催組織に対し基本理念の共有と、幾つかの基本原則を課している。新規加盟を希望する都市は、OHWWに対し意思表示後、本部の審査を経てネットワークへの加入が許可される。加盟団体には、OHWWの設立までに培った経験や技術を基にした「定型化されたオープンハウスの手法」が提供され、新規加盟都市は開催初年度より品質が保証されたプログラムを展開することが可能となっている。



(図1) OHWW ネットワーク図式

2-2. 共通理念と基本原則

OHWWが主体組織に対し掲げる共通理念と基本原則を(表1)に示す。共通理念より、オープンハウスは都市における全ての市民を対象とした建築教育的活動である事がわかった。また、無料公開であることで、子供から大人まで平等に楽しめるプログラムである。

基本原則からは、総人口数や公開対象候補、主催組織のメンバー構成といった点が都市に対し課されていた。以上を満たす事ができれば、最低限の品質が保証されたプログラムが実施可能ということが分かる。

共通理念		
① 都市	② 主催	③ 活動

基本原則		
① 都市	② 主催	③ 活動
④ 資金		

(表1) 共通理念と基本原則ⁱⁱ

2-3. 加盟都市の傾向と分布

(表5)の情報を基に、OHWWへの加盟都市数の推移と6大州への分布割合を(表2)に示す。2010年の設立の翌年よりホームページが設立され、本格的な情報発信が開始された。結果、加盟都市は増加の一途を辿り、毎年3都市以上がOHWWへの新規加盟を果たしている。また(表2)より、現在の加盟都市を「開発期」「萌芽期」「拡散期」に分類することができた。

また、世界分布を表したグラフよりOHWWのネットワークが6大州全域に浸透していることがわかる。その内、61%がヨーロッパに属しており、欧州での取り組みが盛んな事がわかる。一方で、拡散期に入り南アメリカ、アフリカでの新たな都市にてオープンハウスが実施されており、単なる加盟数の増加だけでなく、世界中への伝搬の流れがあることが分かる。



(表2) 加盟都市の増加傾向と世界分布の割合

3. オープンハウスの運営主体

オープンハウスの運営は都市に属する様々な主体の協力を得ている。本章では、OHL を指標とし運営に関与する主体を明確にする。

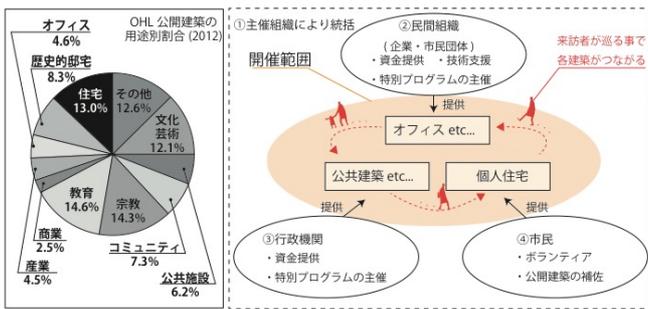
3-1. Open House London の運営主体

岡村ら(2015)ⁱⁱⁱは OHL に関わる主体の相互関係性を明らかにしている。以上を運営という視点から考察した結果、以下の4者が関与している事が分かった。

- ①主催組織…プログラム全体の統括・開催対象の選定
- ②民間組織…資金援助・技術支援・プログラムの主催
- ③行政機関…資金援助・プログラムの主催
- ④市民…ボランティアとして、プログラムを補助

3-2. 運営主体とオープンハウスの運営範囲の関係

(表 4)は 2012 年度の OHL における、公開建築の用途別割合を示している。各運営主体は運営だけでなく建物オーナーとしての役割を担っており、その関係性を(図 2)に示す事ができる。各建物は来訪者の循環により、プログラムとして結ばれている。以上より、オープンハウスの運営範囲は、各主体から提供される公開建築の立地によって定義される事が分かる。



(表 3)用途別割合ⁱⁱ (図 2)運営主体と開催範囲の関係

3-3. まとめ

本章では、オープンハウスの運営主体は「主催組織」「民間組織」「行政機関」「市民」の4者で成り立っている事を示した。これらの主体は如何なる開催地に於いても、普遍的に存在する都市の要素であると言える。また、オープンハウスの中核を為す要素は「建築物の公開」にあると言える。以上より、運営という視点から考察を行う上で、全体の統括を担う「主催組織」と、「民間組織」「行政機関」「市民」より提供される「公開建築物の立地」を検討の対象として抽出するものとする。

4. オープンハウスの主催組織

本章では、運営主体の1つである主催組織に焦点を当て、組織の概要が確認できた34都市を対象に考察を行う。これらの主催組織は、オープンハウスプログラムの全体を統括する立場にあるため、主催組織の理念や背景がプログラムに直接影響すると考えられる。

4-1. 主催組織の形式

(表 5)に示す通り、オープンハウスの主催組織は、オープンハウスの実施を目的に設立された「独自形式」と、オープンハウスの開始以前に既に都市啓発等の取り組みを実施している「既存形式」に分かれる事が分かった。全34都市中、25都市(73%)が独自形式であり、9都市(27%)が既存形式であった。

4-2. 主催組織の出自

主催組織の出自は、民間企業団体からの発足、都市啓発財団、建築的芸術祭(Architecture triennale など)の運営母体からの発足など様々であった。以下、ニューヨーク、メルボルン、シカゴを具体事例として抽出し述べる。

対象都市	ロンドン	ニューヨーク	ダブリン	テルアビブ	エルサレム	ヘルシンキ	メルボルン	バルセロナ	スロベニア	ブリスベン	ローマ	シカゴ	リムリック	テッサロニキ
創設年度	1992	2002	2005	2007	2007	2007	2008	2010	2010	2010	2011	2011	2012	2012
主催組織	Open City	Open House New York	Irish Architecture Foundation			Openhouse Association/ the Finnish Association of Architects(SAFA) / Helsinki Design Week	Open House Melbourne	Arquitectura reversible	House of Architecture	Open House Brisbane	Open City Roma	Chicago Architecture Foundation	Open House Limerick Committee	Open House Greece
主催組織の形式	独自	独自	既存			独自・連携	独自	既存	既存	独自	独自	既存	独自	独自
母体組織		Open City					Committee for Melbourne						Irish Architecture Foundation Limerick City and County Council	
プログラム数(初年)	約30PG	84PG		84PG	84PG	9 PG	8PG	約100PG	45PG		80PG	131PG	84PG	
プログラム数(2015)	761PG	225PG	128PG	116PG	120PG	24PG	93PG	190PG	391PG	88PG	244PG	204PG		67PG
プログラム数(2017)	843PG	137PG	160PG	146PG	118PG	31PG	199PG	240PG	550PG	92PG	240PG	248PG	29PG	99PG

対象都市	リスボン	グディニャ	ウィーン	ズエンスアイレス	パース	アテネ	ヨーク	マドリッド	ブラハ	ピリュニス	モントレー	オスロ	ベルファスト	ポルト
創設年度	2012	2012	2012	2012	2012	2013	2014	2014	2014	2014	2014	2014	2015	2015
主催組織	Lisbon Architectural Triennale	Open House Gdynia	Open House Vienna	Cohabitar Urbano	Open House Parth	Open House Greece	Open House Cork Committee	Open House Madrid	Opne House Prague	Arhitektūros fondas		Open House Oslo	Place	Open House Porto
主催組織の形式	既存・連携	独自	独自	既存	独自	独自	独自	独自	独自	独自	独自	独自	既存	独自
母体組織								Culture Care Foundation	The Open Society	Architecture Found				Lisbon Architecture Triennale
開催当初の対象施設	約70PG													
プログラム数(2015)	70PG		81PG		87PG	68PG	32PG		40PG	30PG	44PG	83PG	50PG	42PG
プログラム数(2017)	87PG	58PG	65PG	106PG	106PG	27PG	12PG	113PG	43PG	50PG		147PG	54PG	60PG

対象都市	ミラノ	チューリッヒ	ストックホルム	ラゴス	トリノ	ビルバオ	グダニクス	サンディエゴ	アトランタ	サンティアゴ	バーゼル	メキシコシティ	ロサリオ
創設年度	2016	2016	2016	2016	2017	2017	2017	2017	2017	2017	2018	2018	2018
主催組織	Open House Milano	Open House Zurich	Open House Stockholm	British Council	Open House Torino	Open Urbanity		Open House San Diego	Open House Atlanta	Open House Santiago			
主催組織の形式	独自	独自	独自	既存	独自	独自		独自	独自	独自			
母体組織	PLEF				建築家、都市愛好家によるグループ	都市計画、建築、市民参加を専門とする若手集団		ALDEA, Fundación PROCULTURA	AIA Atlanta, Central Atlanta Progress and Midtown	San Diego Architecture Foundation			
開催当初の対象施設													
プログラム数(2015)													
プログラム数(2017)	85PG	81PG	60PG	35PG	111PG	47PG		70PG	42PG	47PG			

(表 4) OHWW に所属する全 41 都市の基本情報

■Open House New York(OHNY) [独自形式]

OHNY は、ロンドンに次ぐ 2 番目のオープンハウスの開催地である。OHNY は OHL のスタッフを務めていた、スコット・ラウナーによって輸出される形で 2001 年に設立された。

■Open House Melbourne [独自形式]

OHM は 2008 年に Committee for Melbourne (CfM) のリーダーシッププログラムである、Future Focus Group (FFG) に所属する 8 名の専門家によって設立された。CfM は 1980 年に、実業家集団により創設された非営利団体であり、メルボルンの発展を目的にドックランズの再開発、メルボルン空港の民営化などを実施している。FFG はメルボルンの経済を担う人材育成を目的に様々なプロジェクトを実施し、その運営を一般からの希望者を主導者に割り当てることで、実践的な教育を施している。OHM はその一環である。

■Chicago Architecture Foundation(CAF) [既存形式]

CAF は、伝統的住宅である「Glessner House」の保護を目的に 1966 年に設立された団体である。市民への都市啓発を目的に「Docent Class」というシカゴ建築に関する講演会や、ボートクルーズ、都市計画モデルの展示といった活動を実施している。オープンハウスはその啓発活動の一環として採用されている。

■まとめ

以上の様に、主催組織の出自や理念は様々であり、オープンハウスの利用目的は都市啓発だけでなく、人材育成の機会と捉える事例も見られた。これは、オープンハウスを採用する主催組織の射程が、都市啓発団体のみに留まらないことを示している。

4-3. 主催組織の取り組み

主催組織は、期間限定のオープンハウスの実施のみに留まらず、その活動の幅を広げていることが分かった。以下、具体事例を抽出し述べる。

■Open House New York(OHNY) [独自形式]

OHNY (主催組織) は、年間プログラムと題し、以下の 3 テーマを軸に活動を行っており、概要を(表 6)に示す。「Urban System Series」は、製造業、食品流通、廃棄物処理などに焦点を当てたプログラムであり、建築公開という枠組みを超えて、ニューヨークの社会問題への市民の理解の促進を目的としている。

Project in Planning Lecture Series	ニューヨークにおける大規模プロジェクトの、設計プロセスと設計、施工における固有の課題を探索する講義シリーズ。
The Field Guide Series	建築的・文化的に重要な地域に焦点を当て、一般公開するガイドシリーズ。その地域の個性を生み出す空間操作や生活の様式を探索する。
Urban System Series	都市環境を構築する、製造業(Manufacturing)、食品流通(Food)、廃棄物処理(Waste)に焦点を当て、年次を探索するシリーズ。

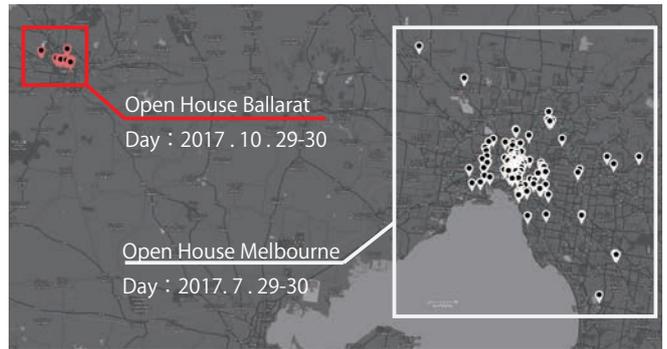
(表 3) OHNY 年間プログラム概要

また計画途上ではあるが、OHNY は Open House America®と称するアメリカ全土を対象としたネットワークを設立している。国民が生活の中心とする都

市・建築に対し批判的な検討ができる様なプラットフォームの提供を目的としている。アメリカ合衆国におけるオープンハウスは、2017 年のアトランタ、サンディエゴの実施を得て増加傾向にあることが分かる。以上より、OHNY は自国におけるオープンハウスのネットワーク化を目指している事が分かった。

■Open House Melbourne(OHM) [独自形式]

OHM はメルボルンにおけるオープンハウスの実施に加え、北西に 105km の距離に位置するバララット市にて、オープンハウスを別日程で実施している。計 24 件のプログラムが、バララット市議会 (行政機関)、および観光推進事業 (民間組織) の協力の下で実施されている。(図 3)



(図 3) Ballarat と Melbourne の位置関係と開催日程

■Chicago Architecture Foundation(CAF) [既存形式]

CAF は年間 85 件以上のツアー企画を提供している。また建築学の初頭教育への導入を推進しており、「The Architecture Handbook」等の教本を発行している。CAF は市民に対し、建築教育を軸に活動する団体であることが分かった。

■まとめ

以上の様に、主催組織の取り組みはオープンハウスの実施を超えて、都市を新たな視点からアプローチしたプログラムが、年間にかけて拡張実施されていることが分かった。また、本来 1 つの主催組織につき 1 つの都市におけるオープンハウスが原則と考えられていたが、複数の都市に跨って実施している事例が見られた。これは、主催組織の取り組みが自律性に富んでいることを示し、オープンハウスの実施を起点にその活動を拡張することが可能であることを示している。

4-4. 独自形式組織の発展と都市啓発団体設立の促進

「独自形式」の主催組織はオープンハウスの実施を目的に設立された団体であるが、その活動の幅はオープンハウスの期間外に発展しており、これらは「既存形式」の活動に類似している事が分かった。OHWW に加盟する主催組織の 73% の都市が独自形式である事からも、オープンハウスの拡散は、開催都市における新たな都市啓発団体の創設を促進している事が分かった。

5. 行政区画とオープンハウスの運営範囲

本章では、運営主体である「民間組織」「行政機関」「市民」より提供される、公開建築物の立地範囲と都市の区画との関係性を考察する。

5-1. 公開建築プログラムの数の傾向

(表4)には、開催初年度⁽²⁾、2015年度⁽³⁾、2017年度の際に実施(公開)されたプログラムの総数を記載している。初年度の総数が確認できた12都市の内、11都市(91%)の都市においてプログラム数の増加が見られた。また、2015年の総数が確認できた28都市の内、17都市(64%)の都市においても、プログラム数の増加が見られ、なかには2倍にまで規模を拡大しているものもあった。以上より、オープンハウスは年月が経過するにつれ、運営範囲を増加する傾向にある事が分かった。

5-2. プログラムの立地と行政区画

次に、プログラムの立地と都市の区画との関係性を考察する。対象の都市はホームページにて、プログラムの立地が反映された地図情報を公開している20都市とする。資料は、同一地図上にプログラムの立地、地方行政機関が定める市域及び都市圏の範囲を記載したものをを用い、検討を行った。

プログラムの立地と市域との関係性を(表5)に示す。対象である20都市の内、16都市(80%)においてプログラムが、行政の定める市域より拡大している事が分かった。以降、地図資料を用いたプログラムの立地に関する検討に移る。

都市名称	市域外件数/総件数	都市名称	市域外件数/総件数	都市名称	市域外件数/総件数
ロンドン	770 / 834	シカゴ	24 / 248	ビリュニス	0 / 50
ニューヨーク	0 / 137	テッサロニキ	16 / 99	オスロ	5 / 147
ダブリン	3 / 160	リスボン	0 / 87	ミラノ	31 / 85
テルアヴィブ	3 / 146	ウィーン	2 / 65	チューリッヒ	9 / 81
エルサレム	0 / 118	ブエノスアイレス	0 / 106	ストックホルム	6 / 60
メルボルン	171 / 199	バース	47 / 106	トリノ	2 / 111
バルセロナ	53 / 240	アテネ	22 / 82		
				都市圏型	地方自治型

(表5) プログラムと市域の関係性

調査の結果、プログラムが市域の内部およびその周辺に位置する「地方自治型」(図4)と、市域を大きく超えて都市圏全域にプログラムが立地している「都市圏型」(図5)が見られた。

■地方自治型

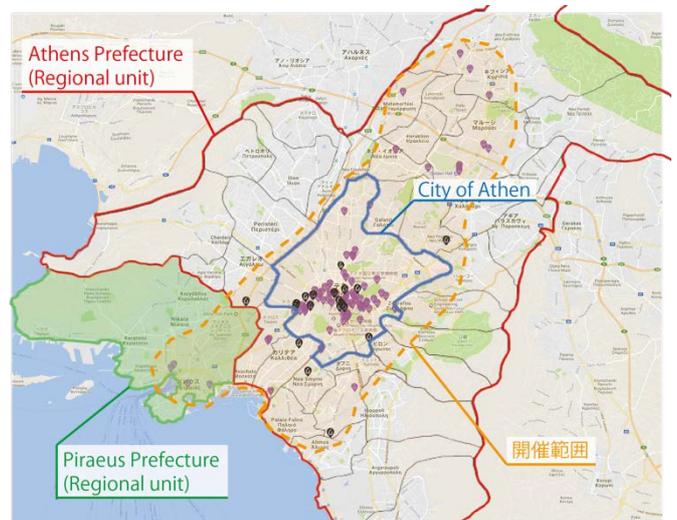
全20都市中、12都市が地方自治型に属すると判断でき、プログラムのほぼ全てが市域内に収まっており、特に中心部に集中している事が分かった。一方で、(図4)のダブリンの事例のように、市域内にてプログラムの分布に偏りが生じているものが幾つか見られた。以上より、オープンハウスの運営範囲は必ずしも行政区画という量的な尺度の影響を受けず、都市という枠組みの中を有機的に広がっている事が分かった。



(図4) 「地方自治型」-ダブリン

■都市圏型

全20都市中、8都市が都市圏型に属すると判断でき、プログラムが市域を超えて実施されていた。これらの都市における運営範囲は、市域を中心に同心円状に郊外地域へと波及している事が分かる。また、(図5)のアテネのように、アテネ県域を超えてピレウス県にまで運営範囲を広げている事例が見られた。以上より、オープンハウスの運営範囲は、時には行政区画という量的な枠組みを越えてプログラムを展開できる「都市領域横断性」を持つことが分かった。



(図5) 「都市圏型」-アテネ

■まとめ

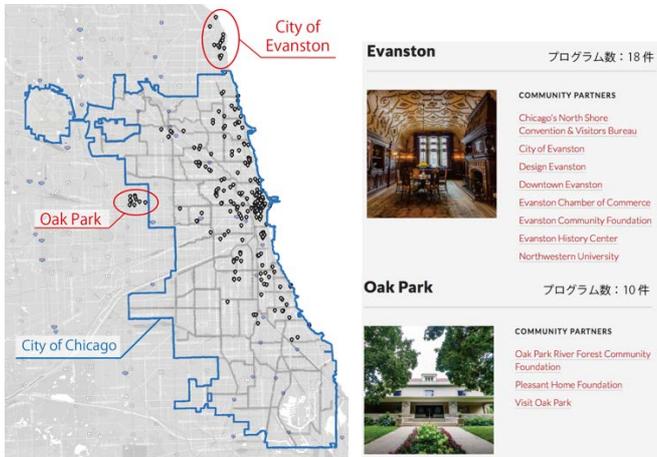
以上の様に、オープンハウスのプログラム数は年次ごとに増加する傾向にあり、都市の中心部から周辺地域へ有機的に広がる事が分かった。また、時に運営範囲は、行政が定める区画を超えることが可能な「都市領域横断性」を備え、オープンハウスが射程とする都市の範囲は1つの市域に留まらない事が分かった。

5-3. 市域からの拡張経緯

本節では、市域からの拡大の根拠を明らかにするためにシカゴ、メルボルンの事例を抽出し、市域外の取り組みを調査した。

■Open House Chicago

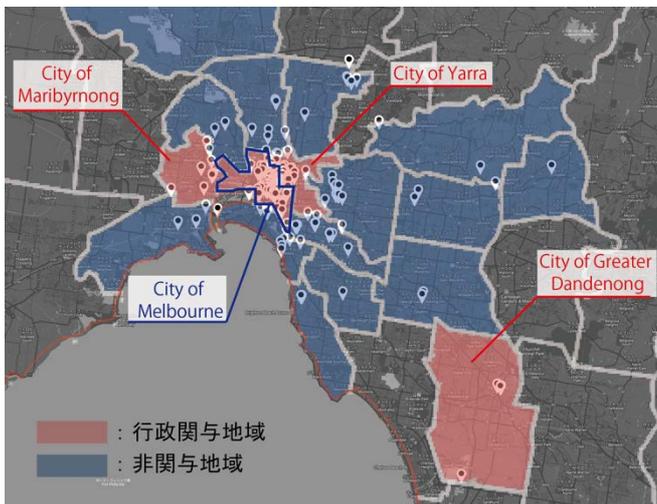
OHCでは、エヴァンストン市とオークパークにて実施されている事が分かった。これらの地域のプログラム運営には、地方行政機関や、該当地域を拠点に活動する民間財団や観光企業の協力が見られた。(図6)



(図6)シカゴ市域外のプログラム立地と協力主体

■Open House Melbourne

OHMでは、地域パートナーとしてダンデノン市、ヤラ市、マルビノー市行政機関の協力が見られ、その位置関係を(図7)に示す。一方で、地域パートナーの記載が見られない地域にも、プログラムが展開されている事が分かった。これらの地域におけるプログラムは、該当地域を拠点に活動する主体ではなく、企業のオフィスや個人住宅といった私的建築物から提供されていると考えられる。



(図7)メルボルン市域外のプログラム立地と協力主体

■まとめ

以上より、オープンハウスの市域外へのプログラムの拡張は、郊外地域を拠点とする主体の協力の下成り立つ場合があることが分かった。一方で、個人所有の建築物は行政的な区画に関わらず、各々の意思で提供される場合がある事も分かった。これらの事実は開催範囲が既存の区画に由来しない事を裏付けている。

6. 結論

OHWはオープンハウスの手法を世界各国に輸出し、現在では6大州全域に及ぶ41都市間でのネットワークを構築しており、今後も拡大が進む事が分かった。また、オープンハウスの拡大は都市啓発団体の新設を促している事実も明らかとなった。

本論文では、OHWに属する全41の開催都市を調査対象に扱い、各加盟都市の主催組織、および運営主体より提供される公開建築の立地に関して考察を行った。結果、得られたオープンハウスというプログラムが持つ新たな特性を以下の3点に統括する。

【普遍性】

オープンハウスは「建築」という普遍的要素を扱う事に加え、運営主体は「主催組織」「民間組織」「行政機関」「市民」により構成される。これらの主体は、如何なる都市に於いても存在する普遍的要素であるため、世界中の都市で開催が可能であると言える。

【プログラムの拡張性】

オープンハウスの主催組織は自律性に富んでおり、その取り組みはオープンハウスの期間外に発展している。オープンハウスは主催組織の理念に沿って、建築公開の実施を起点に、その活動の幅を都市全体、あるいは年間を通じたものに拡張する事が可能である。

【都市領域横断性】

オープンハウスは多様な主体が運営に関与する運動体であり、その運営範囲は行政区画を横断する事が可能である事が分かった。オープンハウスは開催範囲を拡大できる性質を持ち、それらが対象とする都市の範囲の射程は、1つの市域に留まらないと言える。

以上より、オープンハウスは規定の天性を各都市に適応するのではなく、それぞれの都市に属する様々な主体の協力のもと、動的に変化しながら実施されるプログラムであると言える。近年、日本では建築公開を主題としたイベントが各地で実施され、その取り組みは発展段階にある。本研究では、今まで語られていなかったオープンハウスの多様性を生み出す3つの特性を示し、これは新たにオープンハウスの実施を望む都市に対し示唆を与えることができたと言えるだろう。

■補注

- (1)一般的な用語「オープンハウス」は、建築家や不動産業者が開催する内覧会を指すが、本研究では建築公開を主題としたプログラムを意味する。
- (2)文献iより、数値を引用。
- (3)筆者が2015年時、卒業論文の執筆時に調査したデータを引用。

■参考文献

- i 野原卓、岡村祐：「建築都市公開プログラム「オープンハウス」を用いたシティプロモーションに関する研究その1~英国ロンドン Open-Cityの活動と世界的ネットワーク Open House Worldwideの取り組みについて~」日本建築学会大会学術講演梗概集2012年9月号 pp881-882
- ii Open House Worldwide HP: Open House City Request Form 2016,
- iii 岡村祐、野原卓、田中暁子：「建物一斉公開プログラム「オープンハウスロンドン」における住宅公開オーナーの参画動機と役割」日本建築学会技術報告集第21巻 第47号 2015年2月 pp317-320